

伊那谷スケッチ

～自然と文化を巡るふるさと再発見～第47回

前島久美



写真：ドロオイ払いの儀をおこなう筆者（20/07/08）

大雨に緊張する毎日です。6月30日から断続的に続く大雨で村内各所で不通が生じています。これまでに大きな災害を経験した村のおじちゃん、おばちゃん達は、最低限の危機管理をしながら最盛期を迎えたブルーベリーの収穫に大忙し。天候が悪くだめにしてしまった商品も多そうです。

梅雨も後半で長く雨が続き、弟たちの「趣味と実益を兼ねた」鮎釣りは続行困難となりました。右馬允の鮎コースもお休み。仕様がなかったので山に夏キノコを収穫に分け入っています。お目当てのタマゴタケ、チチタケ、アンズタケといった種類が収穫できる一方で、アカヤマドリタケ、カラカサダケ、アミタケといった比較的秋口の種類も収穫できびっくり。更に松茸が連日収穫出来てしまったではありませんか。ここへきて関東方面の感染拡大が報道され、キャンセル続出なのでメニューに入れる事も出来ず、残念ですが転売に奔走しました。人間が脳で考える「実社会」と一般的に言われる経済や構造物はシステムに大

きな影響が出ると滞りますが、いつも山や川は「そのもの」であるのに、豊です。これが「実体」というものなのでしょう。

私の実体（身体）を使った営みとしては、雨の止み間に「ドロオイ払いの儀」をおこないました。農薬無使用を目指す私の田んぼは虫と草がわんさか。あたしたちが食べるためには人間の動力をつかってそのエネルギーを分散する必要があります。

オニグルミのお払い作業は、この地域で行なわれていた「**農薬以前**」の手法です。イネドロオイムシの幼虫は自分のうんちを背中にしょって外的から身を守る技を身につけました。その背中のうんちは「ねちねち」しています。

それに対して大鹿村に極一般的に自生するオニグルミの葉は「ざらざら」という性質を携えており「ねちねち」をうまく捉えてくれるのです。これが「あるものを使って必要なことをする」という先人達の教えです。

得意げに、そしてやや大げさに両手にオニグルミの葉をもって田んぼの中をひとしきり舞うようにして歩きました。

日暮れ前に田んぼから上がると、そこにご近所のKさん。

「そんな短いクルミの葉はえらい（※）ら、枝振りの大きなやつではらってごらんな」とご教授いただきました。

確かに、そっちの方が効率的です。知識だけではなく用法もしっかり吟味しなくてははいけませんね。

※ えらい 飯田下伊那地方の方言 大変の意

◆迂回ルート視察までの道のり 1 「地権者が必要とする人材」

7月13日に迂回ルートの視察をおこなった。地権者とJR東海が交した土地賃貸契約書の「別紙2 第8条 第6項」に基づく土地の見学を要望したためだ。当日までにJRと「地権者が必要とする人材」の件で数回やり取りした。

地権者とJRが結んだ契約書には、視察時に「事前協議の上、求めるものを同行できる」約束を交している。そのため、地権者として今回、弁護士以外に迂回ルートと接する、あるいは辻で生活圏を共有する集落合わせて4つの自治会長を想定した上で申し入れたのだ。しかし、JR側は断ってきた。言い分は『今回の視察は前島の土地部分が対象となり、見学を案内する趣旨は、土地の利用方法、具体的には迂回路の整備状況や隣接するD井水組合の側溝に土砂が流入し

ないような対策や排水等の整備状況を確認するため』だからと言う。さらに『当該土地以外の環境への影響を確認する場ではなく、地権者及びその代理人に、関係する土地の利用状況を確認いただく場』だと続けた。したがって私が指定した同行者は「上市場は関係があるが、その他は関係ない」と言う判断だった。相変わらず住民分断、考え方の乖離を指摘してくるので今度は弁護団とのCCMailで「土地賃貸契約書 別紙2 第8条 第6項」と認識はしており、「文末に協議の上、その指定するものと共に土地を見学することができる」とあるで、地権者として受け入れを要望する。迂回ルートについては考え方違うね、調整よろしく！と送付したらあっさり受け入れた。

◆迂回ルート視察までの道のり2 「メディア排除の現場」

今回の視察日程については特にプレスリリースはしなかったものの、何件か問い合わせがあったのでこちらとしては一律に当事者同士で調整をお願いした。ただJRが断ることもわかっていたので以下の2つを提案してみた。

- ①事前にJR東海の大鹿分室に電話して希望してみる
- ②現場でもめる アポなしで現場にきて協議する。同行できなかつたとしてもJR側の態度がわかっていい取材になるかもしれません。

現在JRは「個別の取材を受けない」としている。結果がわかっていた信越放送のTさんとしては②が「効果あり」と見込んでやってきた。前夜に弁護団とも話し合っただけで対応も決めていた。案の定彼らはメディアの受け入れを「事前に話を聞いていない」「分室の私達では現場で決められない」と断った。2027年開業目指してがんばってるんだから、メディア露出は多い方がいいんじゃないですか、何か映ったらまずい事でもあるんですか？というのがこちら側の感想だ。5分ぐらい言い合いをしたら、JR側の対応はバッチリカメラに収まった。JR本社からスーツ姿の社員があいさつもなく2人同行している。こちら側は参加者の名前を事前に送るよう言われて従っている。失礼だと感じたので名乗ってもらった。(20.07.17)